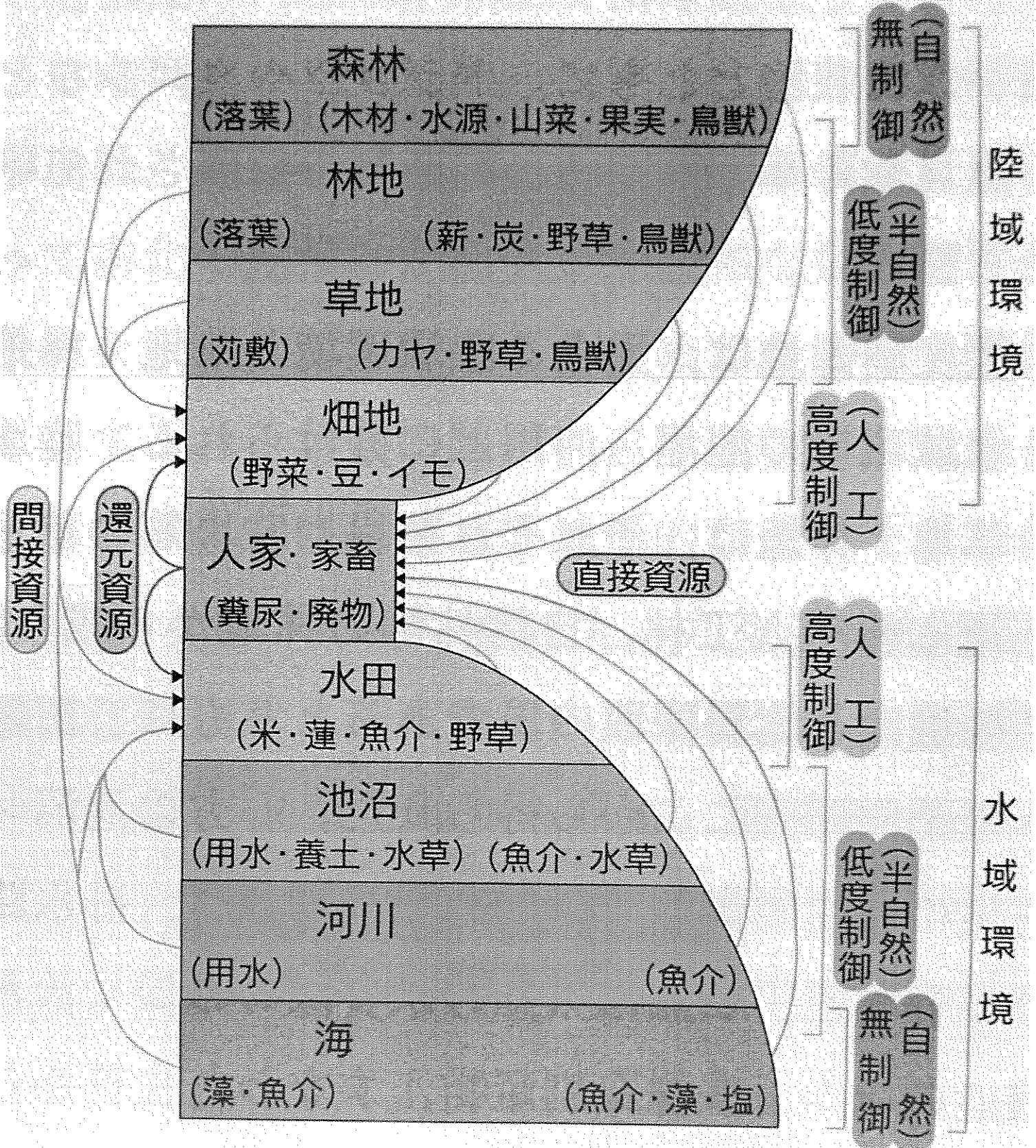


太陽エネルギー



○農林漁業体験や契約産品、契約農地等による市民の支援活動の推進

生物多様性を担う農林漁業は常に経済的不安が付きまとう。しかし、その重要性を多くの人々と分かち合い、労働や付加価値の経済的支援に結びつける取り組みは重要である。観光と結びついた農林漁業体験や生物多様性を担う産品及び農地に対し、市民・NPOによる支援の仕組みづくりを研究・検討するとともにその活動を推進する必要がある。

○地域の里山・里海文化資産の保存・活用

里山・里海は人と自然のかかわりのなかで多様で豊かな文化が育まれてきた。日々の暮らしの生活・生業の方法や習慣・組織・道具、四季折々の行事や祭り・芸能に信仰など、各土地の自然条件や人々の歴史に根ざした有形、無形の文化資産は多い。その中には生物多様性の恵みを素材したもののほか、この文化資産が生物多様性の保全・再生に直結していたものも多い。「里山文化資産」「里海文化資産」の指定登録による保存とそのため調査研究とともに人々のアクセスを確保し一定のルールを基での教育やレクリエーション等への活用が必要である。

○フィールドミュージアムやエコツーリズム等の推進

里山・里海の自然・文化を守り伝えるため、多くの人々がその素晴らしさを体験・認識する取り組みとしてフィールドミュージアムやエコツーリズムの推進が求められる。「里山フィールドミュージアム」や「里海フィールドミュージアム」の設置は人々の生活文化と自然環境とを意識的に結びつけた空間領域であり、博物館や公民館その他の公共施設を拠点として地域の自然・文化の調査研究やその保存活動、教育普及等の地道な活動を通じて機能させ、さらにこれを多くの人々と一体化させる行事のエコツーリズム等は観光や地域活性、まちづくり効果等も期待できる。これらの取り組みを地域に根付かせていくためには、地権者や農林漁業の従事者、地域のNPOや市町村、さらには地域の専門家や博物館等の社会教育施設と継続的に連携・協働していく仕組みづくりが必要である。

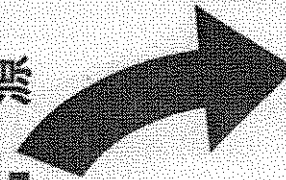
○奥山から里山・里海と都市へのゾーニング設定と土地利用計画

伝統的な里山・里海の保全・再生にはその背後の奥山や都市とのかかわりが重要である。原生的自然環境が残された奥山は水源や野生生物の生息・生育拠点として厳重に保護される必要がある。また現在の里山・里海についてはその保護・保存を重視した「伝統的里山保全地区」「伝統的里海保全地区」の設定を検討する必要がある。さらには都市の再開発等においては里山・里海の自然・文化の素晴らしさを復元・再生する地区を定め「里山・里海再生プロジェクト地区」等を設定し、その中には里山・里海の自然環境と生物多様性の保全・再生を徹底する「里山ビオトープ」「里海ビオトープ」を設け、都市域においても人・自然・文化が調和・共存し可能な限り資源・エネルギーの自立・循環をはかり、人々が自然・生命とのふれ合いのなかで郷土の豊かな文化・伝統を誇りをもって守り伝える地域社会の実現を目指す。

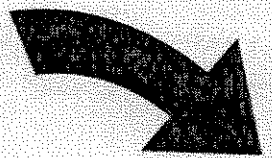
漁業権の設定がない海域（質問：千葉県ではどの程度あるか？）

2004

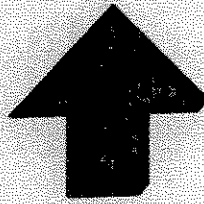
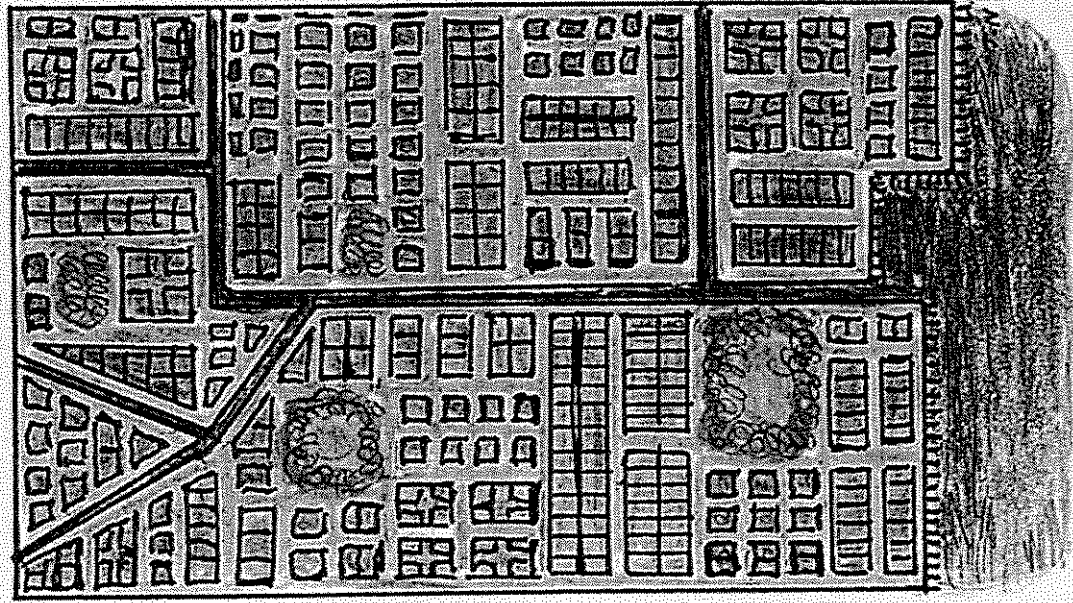
資源 ?



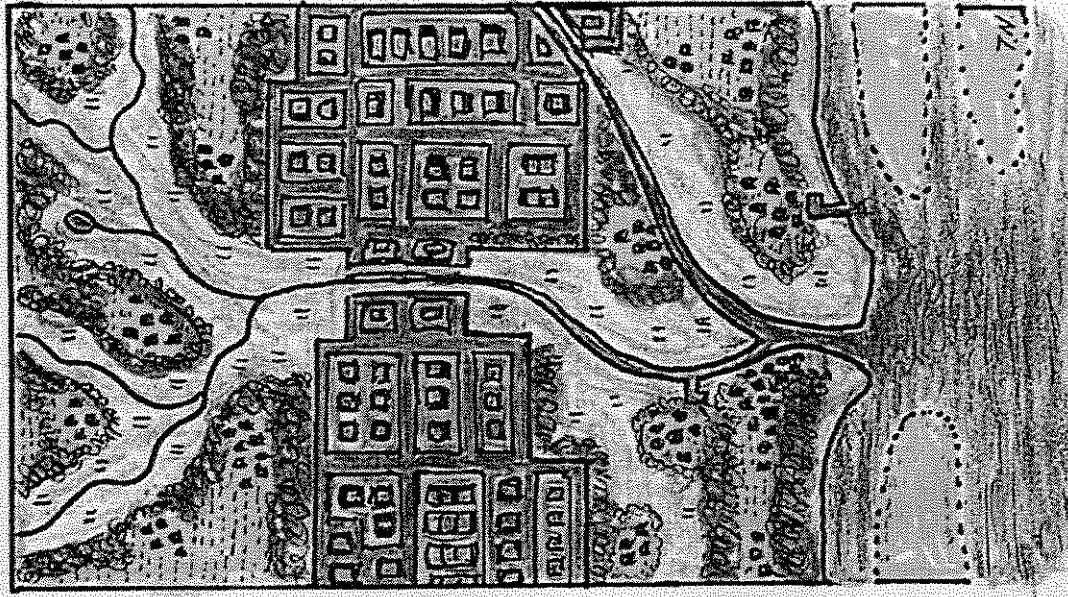
現代都市



? 廃物



2050



里やま

資源 () 廃物

将来都市

資源 () 廃物

里うみ